



2025年 評価

① WWF ジャパン チェックリスト評価

確認手段としてWWFジャパンのチェックリストを使用しています。

チェックリスト評価	樹 種	国 名	使用比率 (%)	チェックリスト評価	
				(樹種別) 得点	個別評価
合 板	ダグラスファー	カナダ	15.24%	81.9	A
	ヒノキ	日本	10.20%	83.3	A
	カラマツ	日本	2.44%	80.5	A
	カポール、クルイン	インドネシア	1.65%	100.0	S
	スギ	日本	1.32%	79.6	B+
	MLH (サバ州)	マレーシア	0.04%	79.8	B+
	オクメ	ガボン共和国	0.01%	79.6	B+
	メランティ (サバ州)	マレーシア	0.02%	79.8	B+
計			30.91%	83.1	A
芯材	スプルース	フィンランド	34.27%	88.7	A
		スウェーデン	4.40%	92.7	A+
		スロベニア	0.28%	86.0	A
		オーストリア	0.18%	86.0	A
	トドマツ	日本	2.75%	74.2	B+
計			41.88%	88.2	A
LVL	ボブラ	中国	5.82%	76.3	B+
	スギ	日本	3.53%	78.6	B+
	カラマツ	日本	2.89%	66.9	B
	ダグラスファー	カナダ	0.10%	62.0	B
計			12.33%	74.6	B+
集成材・その他部材	スプルース	フィンランド	9.57%	69.4	B
		スウェーデン	2.39%	83.6	A
	トドマツ	日本	2.92%	83.8	A
計			14.88%	74.5	B+
総合計			100%	82.9	A

② WWF ジャパンのコメント

2024年から2025年にかけて、ミサワホームの木材調達スコアは81.6%から82.9%へと改善し、引き続き高い水準を維持しています。本スコアの向上は、芯材におけるスウェーデン材の認証材比率の向上などによるものと考えられます。これまで実施してきた供給源の特定、仕入先との対話や徹底した現地踏査、森林経営計画の確認といった基本的なデューデリジェンスの取組みは着実に定着しており、安定した成果につながっています。

一方、全体として認証材の活用は高い水準を維持しているものの、その内訳を見ると国産材の認証材比率には変動がみられます。同社が掲げる認証材の利用拡大という方針を踏まえ、国産材における認証材の活用の広がりが期待されます。国産材における認証材の供給体制の観点では、個社のみでの対応には限界がある中で、同社のような影響力の大きい企業が調達を通じて需要を後押しすることは、サプライチェーン全体の底上げにつながると考えられます。

同社の「木材調達ガイドライン」は、地球規模で求められている生物多様性の保全という社会的責任を果たすことを目的に、他社に先駆けて策定された先進的な取組みとして評価されます。2030年ネイチャーポジティブの実現に向けた動きが広がる中、今後は、これまでの取組みを基盤に、認証材比率のさらなる向上に加え、リスク回避にとどまらず、森林保全・再生や地域社会へのより良い影響の創出が期待されます。